

シニアの9割がICT端末を所有

～シニア=ICTから遠い存在という概念を払拭

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

研究目的 : なぜシニアのICT活用に目を付けたのか

調査結果1 : シニアのICT端末所有状況

調査結果2 : 所有しているICT端末の組み合わせ

■ 研究目的

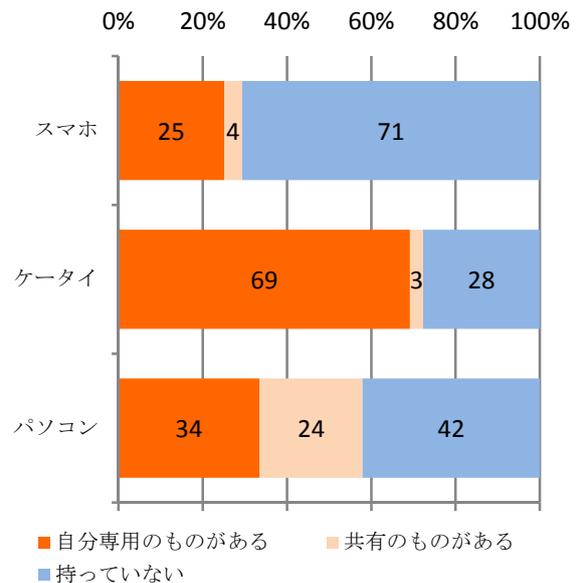
超高齢社会がもたらす社会的課題は、高齢者の孤独（単身世帯の増加）、労働力人口の減少、社会保障費の増大などますます深刻化している。他方、こういった悲観的一面だけではなく、元気で知識やノウハウを豊富に有している「アクティブシニア」が多く存在し、今後も増え続けると予想される。こうした状況をもとに、モバイル社会研究所では、シニア世代の生活をより豊かにするために必要とされること、ICTが貢献し得ることは何か検討することとした。まずは、シニアを生活の実態の特徴によりグループに分け分析をおこなう。そして、様々なシニアのタイプに応じた最適なICT活用の指針を提案することを最終目的とする。この報告書はシニアの生活の実態を当研究所が2015年独自に調査した結果に基づいたものである。

■ 調査結果

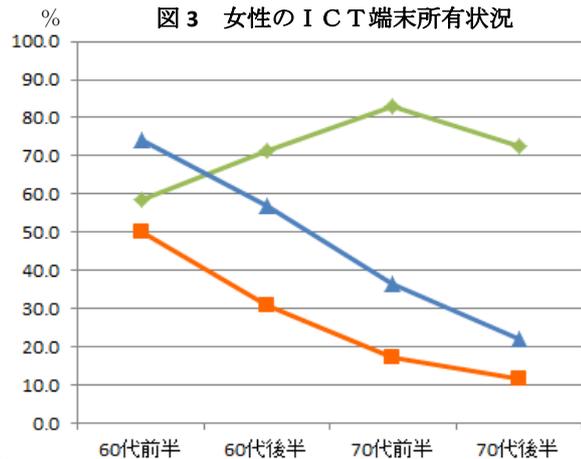
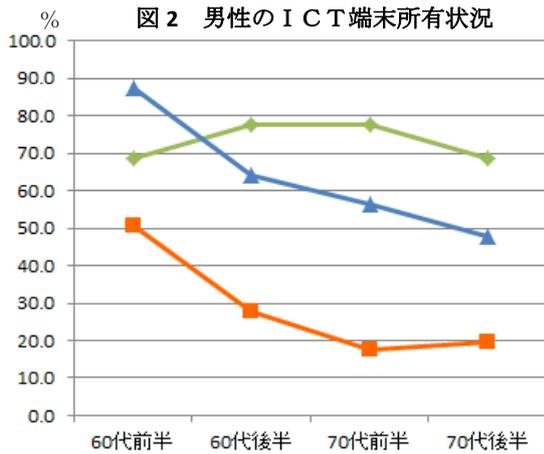
1 ———— 約9割がICT端末を所有・利用

スマホ、ケータイ、パソコンそれぞれの所有（共有のものを含める）を尋ねたところ、29%、72%、58%であった（図1）。また、これら3つの端末を1つも所有していないは10%にとどまり、シニア世代においてもICTが普及している状況が明らかになった。さらに性年代別にみていく。60代前半では男女ともスマホの所有が半数を超えている。ただ60代後半となる約3割と低下し、70代となると2割以下となる。また、スマホ・ケータイは男女によってほとんど差がないのに対し、パソコンは差が生じている。60代前半の男性の所有率は9割弱と非常に高い。女性も同世代では7割強所有している。ただ、70代に入ると男女差が大きくなる。70代後半では男性が5割弱の保有に対し、女性は約26ポイントの差が開いている（図2・3）。

図1 シニアのICT端末所有率



出展）モバイル社会研究所「シニアの生活実態調査」

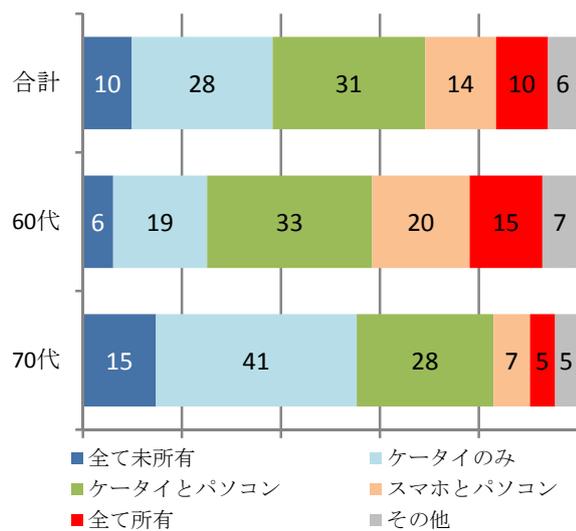


出展) モバイル社会研究所「シニアの生活実態調査」

2 ——— 「ケータイとパソコン」もしくは「ケータイのみ」が約6割

シニアがどのような組み合わせでICT端末を所有しているか分析した結果、「ケータイのみ」と「ケータイとパソコンの両方」を所有しているが、合わせて約6割を占めた。また「スマートフォンとパソコン」を所有しているが14%であった。さらに、「3つの端末どれも所有していない」が10%いるのに対し、「3つとも所有している」も10%存在し、シニアのICT所有状況は、個人によって大きく異なることが判明した(図4)。年代別にみると、60代は「ケータイとパソコン」を所有しているが最も多く、ついで「スマホとパソコン」「ケータイのみ」と続いた。一方、70代は約4割が「ケータイのみ」であった。ついで「ケータイのみ」で約3割であった。このようにICTの所有状況が個人によって異なることが判明した。

図4 シニアのICT端末所有率



出展) モバイル社会研究所「シニアの生活実態調査」

■今後の掲載予定

所有している端末によって、シニアの生活にどのような特徴があるのか、またICT端末でどんなサービスを使っている、どんなサービスを望んでいるか、次号以降で紹介する予定である。なお詳しい調査結果については、2016年9月に発刊予定のスマホ・ケータイ白書2016-2017(仮称)の中で記載する予定である。

■調査概要 (シニアの生活実態調査)

調査時期 : 2015年10~11月 調査対象 : 関東(1都6県)在住、60~79歳男女
 標本抽出法 : QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住地(都市規模)で割付530サンプル回収
 調査方法 : 訪問留置調査

■問い合わせ先

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-m1@nttdocomo.com